



条南中学校の生徒と南郷災害公営住宅の居住者である高齢者が共に参加した東北・南郷防災サミットにおける消火訓練の様子

Students of Jonan Junior High School and elderly residents of Nango Disaster Recovery Public Housing participating in firefighting training as part of Nango Disaster Risk Reduction Conference in Tohoku

## Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこのSEEDSのロゴをかざすと簡単に寄付ができます。】

### Table of Contents Vol.54 (Sept., Oct. 2016)

- ・熊本：熊本地震被災者支援
- ・丹波市：丹波市町づくり共同事業
- ・東北：東日本大震災被災者支援事業
- ・ Bangladesh: Bangladesh都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
- ・インド：参加型コミュニティ防災推進事業
- ・ミャンマー：USAID の能力強化支援プロジェクト
- ・フィリピン：セブ州における防災教育の技術移転事業
- ・ネパール：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト  
& 2015 ネパール地震被災者支援事業
- ・ Project on Support for people affected by Kumamoto Earthquake
- ・ Joint Project with Tamba City on Community Development
- ・ Project on Support for people affected by Great East Japan Earthquake & Tsunami
- ・ Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh
- ・ India: Project on Participatory Community-Based DRM
- ・ Myanmar: Project on Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management
- ・ Philippines: Project on DRR Education with School- Community Linkage in Cebu
- ・ Nepal: Project on Capacity Building of DRM for Village Development Committees & Support for people affected by Nepal Earthquake in 2015



(特定非営利活動法人 SEEDS Asia)

〒658-0072  
3-11-30-302 Okamoto,  
Higashi Nada ku, Kobe, Japan  
神戸市東灘区岡本3-11-30-302  
Tel: 078-766-9412  
Fax: 078-766-9413  
Email: rep@seedsasia.org  
Web: www.seedsasia.org  
Facebook: [http://www.facebook.com/  
pages/SEEDS-Asia/206338119398923](http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923)

## 熊本地震被災者支援

## 【ジャパン・プラットフォーム】

宇城市の仮設住宅は、すでに入居が始まっている4カ所に加え、さらに2カ所で増設となり、10月末より鍵の引き渡しが始まっています。一方、避難所は10月末で最後の1カ所の閉所が決定し、これから本格的に復興に向けた活動が求められています。

## 地域支え合いセンターがスタート

被災した方々が、生活再建に向けて安心した日常生活を送れるよう、見守りや健康・生活支援、地域交流の促進などの総合的な支援を行う「地域支え合いセンター」が10月に開設されました。生活復興支援ボランティアセンターが担ってきた業務が、地域支え合いセンターに引き継がれ、継続的な支援が行われていくよう、SEEDS Asia は引き続き、地域支え合いセンターの支援を行っています。

## 被災者個人への支援

地域支え合いセンターのスタッフが被災された方、ひとりひとりに寄り添った支援を行うためには、まずは信頼関係の構築が必須となります。そこで、民生委員の協力を得て、個別にお話を伺い、ニーズを把握する活動からスタートしています。聞き取った課題を解決するために、適切な機関へつないだり、協力者に紹介したりできるように、毎日ミーティングを行いながら、よりよい支援を目指しています。



ミーティングの様子

## 仮設住宅コミュニティ支援

仮設住宅では、「周囲の方が気になるけれども、話をするきっかけがない」「行くところもないので、ずっと部屋にいる」などの住民の方の声をうけ、住民同士の顔合わせや孤立化を防ぐために、お茶会を実施しました。集会所のある仮設住宅2カ所にて、10月末時点で計6回開催し、109人が参加されました。

お茶会では、地域支え合いセンターのスタッフが個別にじっくりと話を聞いたり、住民同士の会話を促したり、さらにはレクリエーションを通じて参加者一同、声を出して笑ったりと、楽しいひと時を過ごしています。初回のお茶会の様子は熊本日日新聞にも掲載されました。

今後は周辺地域と連携したコミュニティ活動が実施できるよう、計画中です。



お茶会の様子

【ご寄付のお願い】

SEEDS Asia は、以下のCANPAN 決済サイトにて「熊本地震被災者支援専用寄付」を受け付けています。被災地では、長期的な支援を必要としています。皆様方の温かいご支援をどうぞ宜しくお願い致します。

<https://kessai.canpan.info/org/seedsasia/donation/101408/>

## 丹波市：丹波市まちづくり協働事業

## 【丹波市まちづくり協働事業/CWS Japan (UMCOR)】

## 丹波市立吉見小学校での教員研修

9月12日、丹波市の防災指定校の1つである吉見小学校にて、SEEDS Asia が講師となり、「地域との連携による防災教育」と題した教員研修会を実施しました。

研修では、具体例や統計、ビデオ等の資料を交えて東日本大震災の教訓について説明した後、教員の皆さんで2グループに分かれてDIG (Disaster Imagination Game : 災害図上演習) のワークショップを実施しました。ワークショップでは、「災害(地震関連と水害)が起きたら、児童たちはどのような状況に置かれると想定されるか」、そして、「その状況で児童たちを守るためには、どのような教育が必要とされるか」ということをディスカッションしました。2014年の丹波市の豪雨災害は夏休み期間中の発生であり、また、近年の大規模災害も、多くは学校時間外に発生しました。このことから、ディスカッションでは、災害から児童を守るためには、自分の身を守るための自助を育む教育に加え、家族や地域と連携した防災教育をどのように行うか、意見交換が行われ、その実施に向けて、教員同士が意識を高め合いました。



グループディスカッションでは、ハザードマップを基に、学区内の災害リスクの高いエリアを確認



## 防災指定校連絡会議（第4回）の開催

2016年10月12日、丹波市教育委員会、防災指定校の4校の代表者とSEEDS Asiaが集まり、第4回防災指定校連絡会議を開催しました。

第4回目の会議では、学校と地域の連携を促進するため、コミュニティ防災に関する取組の情報共有を行うことが有用、といった前回の会議の結論を踏まえ、市の復興推進部も同席し、進められました。会議では、各校の取組が紹介され、いずれの学校においても、8月の神戸・京都視察以降、学区内の自治振興会や市のくらしの安全課（防災係）に連絡を取り、地域連携の取組を企画・実施していることが明らかになりました。今後は、2014年の丹波市豪雨災害の教訓を防災授業に活かすことができるよう、副教材を作成していく議論を行うことになりました。



生徒と共に消火訓練する高齢者

## ● 東北：東日本大震災被災者支援事業

### 【UMCOR・CWS Japan 支援事業】

#### 条南中学校防災サミット

2016年10月4日、11日、18日と気仙沼市立条南中学校3年生による総合学習の授業、南郷防災サミットが行われました。南郷での防災授業は、条南中学校が標榜する「共生」の授業にSEEDS Asiaが2012年から3年にわたる関わりを経て、南郷災害公営住宅が完成した昨年になって初めて実現したものです。

阪神・淡路大震災の被災地、神戸でも、災害復興住宅の居住者の選定は従前のコミュニティの関係性が考慮されず無作為に選ばれました。その結果、コミュニティ活動は上手く行かず、20年以上経過した現在でも、未だに居住者の孤立化・孤立死が発生しています。

SEEDS Asiaは、神戸の悲劇を繰り返してはならないと、災害公営住宅建設前から行政や社会福祉協議会、既存の自治会とコミュニティづくりに向けた準備を進めてきました。その着眼点は、学校や子どもたちを巻き込んだ活動です。SEEDS Asiaは学校や自治会との強い絆を多角的持つために、学校や子どもたちの参画を容易に図ることができ、より実質的な交流を可能としました。災害公営住宅の居住者である高齢者と学校の生徒との世代間交流が今後の被災地復興の要になることは間違いありません。

南郷防災サミットでは、3回にわたって交流会が行われました。初日の10月4日は、災害公営住宅の敷地に立地していた南気仙沼小学校の元校長である中井さんに当時のお話を伺い、また、この地域の過去の水害について南郷一区会長の伊東さんから話を伺いました。2回目の10月11日には、消防署による消火訓練、そして障害者生活支援センターから障害者の防災と生活を学びました。最終回の10月18日には、自分が関わる地域の防災を地域住民と話し合いました。地域住民の「買い物するのも大変。」「こうやって来てくれるだけで元気になる。」「私たちが避難所運営をやりたい。」「震災時障がい者が命を諦めたく無いと言った時、どんな気持ちだったのか、涙が出た。」等、生の声を聴き、生徒らは「何かあった時に直ぐに助け合える関係を持つために顔の見える繋がりを持ちたい。」「障がいのある人を理解するために普段から接する機会を持ちたい。」と発表しました。



障害者生活支援センターによる授業

危機管理課と自主防災組織連絡協議会から中学生へ期待を込めた講評を頂き、最後に御礼を込めた合唱を住民に披露して防災サミットは終了しました。



12のグループによる発表

 **バングラデシュ**

**【JICA 草の根事業協力：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業】**

**アーバンコミュニティボランティア**

9月1日、SEEDS Asia は北ダッカ市内テジガオン地区のアーバンコミュニティボランティア 11 名とのミーティングを開催しました。アーバンコミュニティボランティアは、消防局によって、主に救助のトレーニングを受けた若者で、ダッカ市内に約 16,000 人います。普段は学生や社会人として活躍している彼らは、災害発生時にはそれぞれのコミュニティにおいて第一対応者として救助活動を行うことが期待されています。アーバンコミュニティボランティアは市の防災計画においても重要な担い手として位置づけられていますが、彼らを十分に活用できていないのが現状です。そこで、ミーティングでは、アーバンコミュニティボランティアとしての日々の活動や想いを話してもらうことでお互いの交流を深めるとともに、テジガオン消防署の副署長を交え、コミュニティ防災の必要性とその中で期待される、コミュニティリーダーとしてのアーバンコミュニティボランティアの役割、また彼らが考える課題について意見を交わしました。



犠牲祭後の街の様子  
(出典：Dhaka Tribune.)

<http://www.dhakatribune.com/bangladesh/2016/09/13/rivers-blood-dhaka/>



アーバンコミュニティリーダーとのミーティングの様子

自分が住む地域のために役に立ちたいという想いでアーバンコミュニティボランティアになったという参加者たちは、本事業にも大変関心を示し、今後北ダッカ市で展開していくコミュニティ活動に積極的に関わりたいと話してくれました。

SEEDS Asia は、7月1日にダッカ市内で発生したレストラン襲撃事件以降も安全対策を徹底しながら活動を行っています。今後も、現地カウンターパートや関係機関、アーバンボランティアとの連携を密に取りながら、安全第一に事業を進めてまいりますので、引き続き、ご支援よろしくお願いたします。

**犠牲祭と水害**

9月13日、バングラデシュはイスラム教の祝祭であるコバルニ・イード(犠牲祭)を祝いました。犠牲祭では牛やヤギを神様に捧げ、その肉は3等分にして家族や親戚、そして貧しい人たちと分け合います。ダッカもお祭りモード一色でしたが、当日は朝から続いた激しい雨で道路は冠水し、犠牲祭の動物の血と混ざって街の広い範囲にわたり溢れ出しました。犠牲祭後の早急な清掃は市の例年の課題であり、今年も事前に各区の区長を話し合いが行われていました。市に批判が集まる一方で、側溝の掃除や指定エリアでの犠牲祭の実施など、住民への啓発や住民による平時からの取り組みの必要性が認識される出来事となりました。

 **インド**

**【日本 NGO 連携無償資金協力事業：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】**

SEEDS Asia はインドのバラナシ市において「クライメート・スクール (CS)」と呼ばれる、気象や大気汚染の観測装置を設置し、気候変動教育/防災教育を地域住民と実施するプロジェクトを実施中です。9月、10月は下記の活動を行いました。

**CS 教員によるタウンウォッチング・トレーニングの実践**

7月下旬に豪雨・洪水を想定したタウンウォッチング・トレーニングに参加した CS 4 校の教員が、今度は自校の生徒に対して同トレーニングを実施しました。合計 240 名(各校 60 名×4 校)の生徒たちはトレーニングを通して、学校や近所における災害リスクや避難場所を確認した上で、災害リスクの削減のためにできることを考えました。例えば、普段目している堆積したゴミが水はけを悪くし、洪水の一因となっていることや、水が引いた後には衛生上の問題や感染症を引き起こしかねないことに気づきました。生徒たちは、災害は普段の生活の延長線上にあり、また、だからこそ身近な問題として取り組めることを確認しました。

後日、生徒たちは、トレーニングでの気づきを学生気候新聞『ブラハリ』に記事としてまとめ、防災に関する理解をさらに深めました。



アーリアン国際校でのタウンウォッチングの様子



地域防災協議会の活動が本格化

当事業では5つのCSが位置する各地区において地域防災協議会を結成し、地域住民参加型の防災を推進しています。9月4日は、各地区の協議会代表者からなる実行委員会を、8月に発生した洪水被害が深刻だったアダンブール地区で開催しました。当地区の地域防災協議会の案内の下、漁師が多く住む被災地の被災状況を実行委員が確認したほか、今後の対応について、地域住民と議論を交わしました。その内容は地域防災だけでなく村落開発にまで発展し、様々なアイデアが次々と出されました。



ネットワークミーティングでの被災地視察の様子

ネットワークミーティングを開催

9月24日には、CSと地域防災協議会の代表が集められたネットワークミーティングを開催しました。国家災害対応部隊の指令補佐官にもご出席いただき、7月の洪水の際にそれぞれが実施した災害対応の経験を共有、また、この1年の成果を確認した上で、活動を更に発展させるために取り組むべき今後の課題について議論しました。また、地域防災協議会と学生気候新聞『ブラハリ』がどのように連携していくかを含め、学校と地域との連携を深めるための様々な提案が活発に出され、第2期への活動意欲を新たにしました。



ラナ・サンGRAM・シン - バラナシ県国家災害対応部隊司令官補佐の談話の様子

 ミャンマー

【USAID 国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト】

社会福祉救済復興省・復興救済局をカウンターパートとして、ミャンマー国家防災マネジメントトレーニングセンターにおける防災マネジメントトレーニング及び防災に関わる研究や啓発のプロジェクトを実施しています。9月から10月の活動は下記のとおりです。

(\* 共同コンソーシアムメンバー：UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED 他。  
技術協力団体：UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA 他)

ミャンマー国における科学技術と防災の統合に関する学長者会合

ミャンマー国における科学技術と防災の統合に関する学長者会合が10月7日にミャンマー工学会で開催されました。64名（政府機関5名、14大学から学長・副学長等42名、技術機関6名、市民団体4名）の方々に参加し、今年8月にバンコクで開催された第1回アジア防災科学技術会合でのロードマップ及び成果に沿って、ミャンマーでの科学技術に基づいた防災活動について議論を行いました。会合の中では、SEEDS Asia がヤンゴン工科大学と連携して実施した湾岸地域コミュニティの災害回復力調査並びにダゴン大学との連携で実施した気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブの調査がミャンマー国内での防災調査事例として紹介されました。会合の最後には協議の中で合意・確認された11点に集約された優先事項の取り組みについて、教育省よりカイ・ミエ 教育省オルタナティブ教育局長、ウー・ウィン・カイ・モー 研究・イノベーション局長、ウー・アン・ミン ミャンマー工学会長、ラジブ・ショウ SEEDS Asia 理事長兼 ISDR-ASTAAG(co-chair) の4名による議事録署名が行われました。



参加者の集合写真

ネピドー、ヤンゴン、バゴの3地域で国際防災の日イベントに参加

10月13日、SEEDS Asia は防災ワーキンググループのメンバーとして、ネピドーにあるインターナショナル・コンベンション・センターで開催された国際防災の日に参加しました。H.E. Mr. Henry Van Thio ミャンマー副大統領兼国家防災委員長が開催が式辞を述べた後、国連やNGOで構成された防災ワーキンググループの写真展示場を見学し、SEEDS Asia は副大統領に対し、ミャンマーでの防災活動を紹介しました。また、U Win Khaing 建設省大臣からは、SEEDS Asia のミャンマーにおけるカウンターパートである、ミャンマー工学会の前会長として、激励のお言葉を頂きました。また、国際防災式典はミャンマーの各地で実施され、社会福祉救済復興省・復興救済局の招待により、ヤンゴン地域、バゴ地域でもブースと活動写真を展示し、参加しました。



SEEDS Asia が副大統領に防災活動を説明

**CCRI (湾岸地域コミュニティの災害回復力調査) 及び CDRI (気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価インシアティブ) のアクション・プランニングに関するワークショップが開始**

10月24日よりCCRI(湾岸地域コミュニティの災害回復力調査)及びCDRI(気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価インシアティブ)のアクション・プランニングに関するワークショップが開始しました。このワークショップは、ヤンゴン工科大学と連携して実施した、CCRI(エーヤワディー地域全26区対象)と、ダゴン大学との連携の下で実施したCDRI(パテイン区内の全15町を対象)の調査結果をベースに、防災の対応能力に関わる各区の課題の共有及び効果的な防災策を協議し計画することを目的として実施しています。

第一回目のワークショップが10月24日にパテイン県内で実施され、U Than Soe 社会福祉救済復興省・復興救済局エーヤワディー地域事務所長が開催の式辞を述べた後、パテインの県及び区事務所職員が各課題に分かれて協議を行い、アクション・プランについて発表しました。今後、パテインに続き、他5県(ミャウミャ、マウビン、ピャッポン、ヒンダタ、ラプタ)においてそれぞれの区職員を集めて実施し、11月7日に完了する予定です。集約された意見については、すべてのワークショップが終了した後、冊子として調査結果と協議案を紹介し、社会福祉救済復興省・復興救済局(ネビドー)に政策提言として提出する予定となっています。



社会福祉救済復興省・復興救済局エーヤワディー地域事務所長の式辞

同時に、他校の別の教員が同アイプランを基に授業を遂行することができるかも確認し、これらを総合的に評価した上でアイプランの更なる改善のための検討協議と、アイプランを作成した教員への指導が行われました。パイロットテストを経たアイプランは、教育省地区事務所のカリキュラム開発部によって再度修正が行われ、最終的に教育省第7地方事務所の審議にかけられた後、正式なアイプランとして承認されます。承認されたアイプランは、教育省のホームページを通してフィリピン全土で共有されます。この防災教育を融合したアイプランが完成すれば、将来的にどの学校のどの教員でも防災教育の実践が可能となります。

現在、トレド市以外の地区事務所でもアイプランの作成、パイロットテスト、地区事務所での審議を進めており、優良な防災授業の事例をより多く集めて、防災教育のモデルを確立することを目指しています。



防災授業のパイロットテストで地震から身を守る生徒たち

**防災教育モデル校・推進校地区における他校への防災教育普及活動**

現在、防災教育モデル校・推進校を管轄する各教育省地区事務所では、カリキュラム開発部部長や防災管理コーディネーター、また、研修を受けたモデル校・推進校の教員の先導によって、各地区において他校への防災教育の普及のための教員研修が積極的に行われています。

【防災教育モデル校・推進校地区での他校への防災教育普及のための教員研修】

地区名	期間	参加者数
ダナオ市(モデル校地区)	8月24日～26日	77名
セブ州ダアアンバンタヤン町(モデル校地区)	10月13日～17日	220名
ラブラブ市(推進校地区)	10月17日～19日	190名
ボゴ市(モデル校地区)	10月26日～28日	570名

この教員研修では、SEEDS Asia が過去に実施した防災教育モデル校・推進校の教員への研修と同様、21の防災教育プログラムを受講する教員が体験して実践することにより、防災教育の実施能力の育成を図りました。参加者は自発的かつ積極的にこのプログラムに参加し、自ら楽しみながら防災教育のノウハウを学びました。同研修の企画・運営には、モデル校地区においてはコアチームと教員研修を受けた教員が、推進校地区においてはコアチームと同様の機能を担うカリキュラム開発部部長と推進校教員が中心となって携わりました。このように、他校への防災教育推進活動が地区事務所や学校教員の主導の下、各地区レベルで横展開される仕組みが構築され、事業対象校以外の学校にも事業成果が波及されています。そして、今後も、指導者として育成された教員が持続発展的に防災教育を実施していくことが期待されます。



**フィリピン (セブ)**

**【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業】**

**トレド市におけるアイプランのパイロットテスト**

2016年9月16日、防災教育推進校の一つであるトレド市タラベラ小学校にて、アイプランのパイロットテストを実施しました。アイプランとは、授業をどのように進めていくかを記載した指導計画書(instructional plan)であり、授業実施前に教員によって作成されます。防災教育推進校では、今年5月に実施された教員研修以降、フィリピンの教育省が定めている正規授業科目に防災教育を融合したアイプランの作成と提出を奨励しています。そして、そのアイプランが他校でも適用可能かについて、授業実践により検証する取組がパイロットテストとなります。今回のパイロットテストの視察には、同校を管轄する教育省トレド市地区事務所カリキュラム開発部より部長と教育指導主事が参加し、パイロットテストを実施するタラベラ小学校の学校長とともに、アイプランの構成、質問事項の内容表現や数、説明順序が適切かどうかの検証を行いました。





セブ州ダアアンパンタヤン主催の教員研修で消火器を使用する教員の様子



CDCCS と協議する SEEDS Asia スタッフ



ラブラブ市主催の教員研修で防災ゲームに参加する教員の様子

## 【一般寄付：2015 ネパール地震被災者支援事業】

### ドゥンジャ地区リソースセンターへの備品供与による能力向上支援

ネパールの教育システムでは、3～4 村をカバーし、学校の教育状況について、郡の方針に基づいて指導したり、学校の問題を郡の教育事務所に報告したりするリソースパーソンが配置されています。そのリソースパーソンが職務を行う場所がリソースセンターです。直接、学校の教員を指導する役割に当たるため、リソースパーソンによる各学校への指導・管理能力の向上は、その地区全体の教育能力向上の鍵となります。

ドゥンジャ地区では、ゴルカ地震により、リソースセンターが損壊しました。幸い、現在では、新たなリソースセンターが用意され、リソースパーソンは職務を再開しておりますが、各学校の教育状況をモニタリングして取りまとめるための備品や、教員を招集して研修を行うための備品類が全く整っておりません。そこで、SEEDS Asia では、今後のリソースセンター運営に必要な備品についてニーズを把握し、備品供与をすることで、リソースセンターの能力向上を支援できないか、調査を開始しました。今後、調査結果に基づいて、備品調達・供与を行う予定です。



## ネパール

### 【中央共同募金会：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト】

#### 防災ワークショップに関する現地団体 CDCCS との協議

SEEDS Asia は、2015 年 4 月のゴルカ地震で被災したシズリ郡ドゥンジャ地区内の 3 村を対象に、現地団体の CDCCS (Center for Disaster and Climate Change Studies) と協働で、コミュニティの防災能力向上のための支援事業を実施しております。2016 年 9 月下旬、SEEDS Asia 日本人スタッフがネパールに渡航し、CDCCS と防災ワークショップのプログラムを開発するための協議を行いました。プログラムでは、村の人たちがゴルカ地震を振り返る機会を設けることで、当時の教訓に気が付き、災害に対する備えの必要性・重要性について認識していただくこと、また、その備えの一助として、避難訓練の実施について、村の役人の参加型で計画を立案し、村人を交えて実施を行うこと、を主眼において、作成しました。

ネパールは、10 月にダサインやティハールといった長期休暇があるため、その期間にプログラムの内容をより固め、11 月に入ってから、村の方々と実施に向けた調整を行うこととしました。



ドゥンジャ地区の子どもたち

## Kumamoto Earthquake

### Japan Platform

In the temporary housing in Uki City, in addition to four houses that the moving-in had started before, two other newly built houses have also been opened for people to move in since the middle of October. Meanwhile, at the end of October, it is determined that the final evacuation shelter will be closed. From now, activities are expected to work for a full recovery.

#### The launch of the Community Mutual Support Center

In order to help earthquake-affected people spend peaceful daily life towards living recovery, the Community Mutual Support Center was opened in October. The Center is expected to provide health and life support as well as promote local community exchange. The work that has been shouldered by Life Recovery Support Volunteer Center will be handed over to the Community Mutual Support Center. SEEDS Asia will continue to support the Community Mutual Support Center (CMSC).

#### Support activities for individuals

Building reliable relation with affected people is crucial for CMSC to provide the support that concerns every individual. Therefore, the activity of talking with each individual to grasp the needs has been started with cooperation of local welfare commissioners. A meeting is conducted every day to aim at better support activities to solve the grasped issues through connection with relevant agencies or introduction to cooperation partners.



At a meeting

#### Support for the community in temporary housing

In temporary housing, some residents said: "I know some people who are living around, but I did not have any chances to talk to them", or "I have no places to visit, so I keep staying in my room". In response to the opinions, tea gatherings have been held so that the residents can meet one another and avoid isolation. Until the end of October, six tea gatherings have been held in the two temporary houses that have a gathering place, with participation of a total of 109 people.

At the tea gatherings, staff members from the Community Mutual Support Center listened carefully to each individual and encouraged the residents to talk to one another; the participants also enjoyed happy moments when they laughed together during recreations. The first tea gathering was reported in the Kumamoto-nichi Daily Newspaper.

Plans are being built to enable the conduct of community activities with the cooperation of surrounding areas.



At a tea gathering

## Tamba City

### Joint Project with Tamba City for Community Development, CWS Japan (UMCOR)

#### Training for teachers at Yoshimi Elementary School (E.S) in Tamba City

On 12th September, at Yoshimi E.S, an appointed disaster risk reduction (DRR) school in Tamba City, SEEDS Asia served as a lecturer and conducted training for teachers on the theme "DRR education through cooperation with local community".

In the training, after exchanging concrete examples or statistics documents and videos and explaining the lessons learnt from the Great East Japan Earthquake and Tsunami, teachers were divided into two groups to participate in Disaster Imagination Game (DIG) workshop. In the workshop, there was a discussion about what kind of situation students would get into if disasters (earthquakes or floods) occurred, and what kind of education students would need so that they would be protected in such situation. The heavy rainfall in Tamba in 2014 occurred during summer vacation, and many other big disasters in the recent years also occurred outside of school hours. Under this circumstance, how to implement DRR education in cooperation with families and local community besides teaching about self-help for students became a topic for teachers to exchange their ideas, and their awareness has been heightened through the discussion.





Areas with high disaster risks in school-area were confirmed based on hazard map during the group discussion

### The fourth liaison conference for appointed DRR schools

On 12th October 2016, the fourth liaison conference for appointed DRR schools was held and attended by Tamba City Board of Education, representatives of four appointed DRR schools and SEEDS Asia.

The previous conference concluded that sharing information about community-based DRR activities would be useful for the promotion of the cooperation between schools and local community and this conclusion was in progress in the fourth conference with the attendance of the city's Division for Recovery Promotion. In the conference, activities of each school were introduced, and it was clear that after the study visit to Kyoto and Kobe City in August, all the schools either planned for or actually implemented activities for cooperation with their local community by contacting with the neighborhood association in their school-area or the city's Division for Life Safety (DRM Section). The next conference will discuss creating an auxiliary book that can help leverage the lessons learnt from the Tamba heavy rainfall disaster in 2014 in DRR classes.

## ● The Great East Japan Earthquake

### UMCOR · CWS Japan

#### Jonan Junior High School disaster risk reduction meeting

On 4th, 11th and 18th October 2016, Nango Disaster Risk Reduction (DRR) Conferences were conducted in the class of integrated studies for third-year students. DRR classes in Nango were launched when the construction of Nango Disaster Public Housing was completed last year, after SEEDS Asia had involved in the classes of "co-living" that Jonan Junior High School advocated for three (3) years since 2012.

Kobe city was also affected by the Kobe Earthquake; the residents of disaster recovery housing in Kobe city were chosen randomly without prior consideration of community relation.

As the result, community activities were not well implemented, and even now, after 20 years, the residents are facing isolation and there are even Kodokushi (lonely death phenomenon which happens when a person lives alone and dies for a natural cause at home without anyone knowing).

Before the construction of Disaster Public Housing in Nango was completed, SEEDS Asia had made preparations towards community development in cooperation with the government, the social welfare council and existent neighborhood associations, so that the tragedy of Kobe will not be repeated. The emphasis was placed on the activities that involved schools and children. Since SEEDS Asia had multilaterally strong connection with schools and neighborhood associations, it was considered that the participation of schools and children could easily be achieved, and effective exchange activities would be possible. The exchange activities of different generations between elderly residents of Disaster Recovery Public Housing and school students will become a key factor for the recovery of affected area.

Three exchange meetings have been held within Nango DRR Conference. In the first meeting on 4th October, there were a talk by Mr. Nakai, the former principal of Minami Kesenuma Elementary School, which had been located on the ground of the Disaster Public Housing, about the situation at that time, and a talk by Mr. Ito, the head of Nango District 1, about past flood damage in the area. In the second meeting on 11th October, participants took a fire drill which was conducted by Fire Station, and learned about the disaster risk reduction and daily life of disabled people from the Disability Support Center. In the final meeting on 18th October, the students talked with local residents about DRR in their own area. Local residents said: "Even shopping was difficult", "We get much strength just because you come here", "We want to be in charge of the operation of evacuation shelters, too", "I cried by thinking about the feelings of the disabled people who said they did not want to give up saving their own lives during the disaster". Listening directly to the opinions, the students said that they wanted to build relations, starting from remembering other people's faces, so that they could help one another immediately when anything happened, and that they wanted to also have opportunities to meet disabled people on ordinary days.



The elderly participating in a fire drill with students



A class by the Disability Support Center

After the Crisis Management Division and Network Association of Voluntary Organizations for DRR gave their speeches with expectation to the students, the DRR meeting ended with a choir performance that the participants sent with their gratitude to the residents.



Discussion with Urban Community Volunteers

The urban volunteers said that they had become a volunteer simply and purely because they wanted to do something for their community people. They showed their strong interest in SEEDS Asia's project in Dhaka and agreed to actively participate in community work.



Presentations of 12 groups

After the Gulshan café attack on 1st July, SEEDS Asia has been working in Dhaka north city with further security measures. We are continuing our activities in the city, strengthening cooperation with local counterparts and other stakeholders including urban volunteers. We hope for your continuous support.

Eid-ul-Azha and Flood

On 13th September, Bangladesh celebrated the Eid ul-Azha (festival of the sacrifice), Islam's holiest festival. On the day, people sacrifice animals such as cows and goats and share the meat with family, relatives, and the poor. This year the city observed a downpour which started in the morning and continued intermittently until the evening. The heavy rain flooded a large area of the city and was mixed with animals' blood. Quick cleaning after the festival is a big task for the city every year and there was strong criticism of the city corporation, however, this event made it clear about the importance of the residents' awareness and everyday activities, for example, the residents may also take responsibility for maintaining drainage in their locality or for using designated area for the festival of sacrifice in order to prevent such disasters.

 Bangladesh

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh

Urban Community Volunteers

On 1st September, SEEDS Asia organized a meeting with Urban Community Volunteers in Tejgaon area in North Dhaka City with attendance of 11 urban volunteers. Urban community volunteers are young volunteers, both men and women, who took training mainly in rescue operations by the Bangladesh Fire Service and Civil Defense. Over 16,000 urban volunteers in Dhaka city are expected to play a role as first responders in their own communities in emergency situations. Despite being considered as an important stakeholder in the city's disaster risk reduction plan, urban community volunteers have not been fully utilized yet. Therefore, through the meeting, they had an opportunity to deepen their exchange by sharing their stories of why they became volunteers and what activities they do to one another. Also, presented by the deputy head of Tejgaon fire station, the meeting discussed the rising importance of community-based DRR and what the urban community volunteers could do as community leaders.



Dhaka city after the Eid ul-Azha

(Source: Dhaka Tribune.

<http://www.dhakatribune.com/bangladesh/2016/09/13/rivers-blood-dhaka/>)





India

**Project Funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA): Project for Participatory Community-Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi**

SEEDS Asia has been implementing the project that community people participate in Disaster Risk Reduction (DRR)/climate change education through 'Climate Schools' (CS) where the machines to assess weathers and air pollution are installed. The activities conducted in September and October are as follows.

Town-watching training at CS

The teachers of four climate schools, who had attended the training of trainers organized by the SEEDS Asia in July conducted town-watching training for the students in their schools. 240 students in total investigated disaster risks and evacuation places in their school and neighbouring areas and discussed potential solutions to these risks. For example, they realized that the rubbishes which were carelessly dumped in street blocked drains, caused floods consequently and might invite outbreaks of hygienic problems or communicable diseases. The training allowed them to view disasters as an extension of their daily lives and therefore, to address them as immediate issues. Later, their findings were demonstrated in Prahari, a newspaper by students .



Town-watching training at Aryan International School

Citizen Forums fully in progress

Citizen Forum (CF) has been formed as Climate School Associate Society (CSAS) in five zones where CSs are located in order to promote the community's involvement into disaster risk management along with climate schools. On 4th September, the network meeting among the representatives from Climate School Associated Society (CSAS) committee was held in Salai Mohana village in Adampur zone, which had been severely damaged by floods in August. Observing the situations, the representatives from each CSAS committee members discussed with the community people how disaster response could be improved, as well as the linkage of disaster risk reduction and social economic development.



Visit to the flood-affected area

Network meeting, CS and other stakeholders gathered

On 24th September, a network meeting was organized for representatives of CS and CF (CSAS), inviting the Assistant Commandant of the National Disaster Response Force. They shared their experiences of disaster responses in the event of floods in July, reviewed their first year achievements and discussed future challenges for further development. Moreover, various ideas were proposed to strengthen the collaboration between schools and communities, for example, through promoting Prahari. The meeting turned out to be an excellent opportunity to prepare for the project's second phase.



Conversation with Mr. Rana Sangram Singh, Assistant Commandant of the National Disaster Response Force



Myanmar

**USAID MCCDDM Project: Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management**

SEEDS Asia is working on disaster management (DM) trainings and research and public awareness of disaster risk reduction (DRR) at Myanmar National Disaster Management Training Centre (DMTC) under the project in cooperation with Relief and Resettlement Department (RRD) of Ministry of Social welfare, Relief and Resettlement (MSRR). The report on our activities of September and October 2016 is as follows.

(\*Consortium of MCCDDM : UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED etc. Technical support agencies in the consortium: UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA etc)

[High-level Meeting on Integration of Science and Technology into Disaster Risk Reduction in Myanmar](#)

A high-level meeting on the integration of science and technology into disaster risk reduction in Myanmar was held at Myanmar Engineering Society on 7th October 2016. A total of 64 people including 5 from the government, 42 academics from 14 universities, 6 from technical institutes and 11 from civil society organizations participated in the meeting. They discussed actions for science- and technology-based DRR in Myanmar aligning with the global science and technology roadmap and outcomes of the first “Asian Science and Technology Conference for DRR” held in Bangkok in August 2016. Coastal Community Resilience Index (CCRI) survey conducted by SEEDS Asia in cooperation with Yangon Technological University (YTU) and Climate and Disaster Resilience Index (CDRI) survey in cooperation with Dagon University were introduced as case studies of DRR research in Myanmar. At the end of the meeting, Dr. Khine Mye, Director General of Alternative Education Department- Ministry of Education, U Win Khine Moe, Director General Research and Innovation Department- Ministry of Education, U Aung Myint, the President of Myanmar Engineering Society (MES), and Dr. Rajib Shaw, Board Chairman of SEEDS Asia, signed the outcome document (minutes) summarizing 11 priority actions that were agreed and confirmed by the participants in the meeting. This document will be utilized for the investment and development of science and technology into DRR research in Myanmar. (This project is being implemented as MCCDDM consortium which is supported by USAID).

SEEDS Asia introduced to him its DRR activities. Later, SEEDS Asia also explained its recent activities to the Minister of Construction, former president of Myanmar Engineering Society (MES), a counterpart of SEEDS Asia. SEEDS Asia received his words of encouragement. The events of IDDRR were held throughout Myanmar and SEEDS Asia also participated in the events in Yangon and Bago regions where pictures of SEEDS Asia’s DRR activities were displayed at a booth.



SEEDS Asia explaining its DRR activities to the Vice President

[Workshop on Action-Planning of Coastal Community Resilience Index \(CCRI\) and Climate and Disaster Resilience Index \(CDRI\) Survey Started](#)

From 24th October 2016, the workshop on Action-Planning of Coastal Community Resilience Index (CCRI) and Climate and Disaster Resilience Index (CDRI) surveys started. The field survey and analysis of CCRI were conducted in 26 townships in Ayeyarwaddy region in cooperation with Yangon Technological University. The ones of CDRI were conducted in cooperation with Dagon University in 15 wards of Patheingyi Township. The objectives of the workshop are to share the findings and issues in DRR resilience found in each township and to discuss possible and effective solutions to the problems with officers from several departments of the government, township municipal office, and education office in respected Township and District. The first workshop was held in Patheingyi on 24th October 2016. After Mr. U Than Soe, the Director of Ayeyarwaddy Regional Office of RRD, delivered his opening remarks, officers from township municipal office and education office discussed solutions to identified problems in Patheingyi. It is followed by the workshops in 5 other districts; Myaung Mya, Maubin, Pyawbwe, Hinthada, and Labutta, and all workshops are going to be completed on 7th November. A booklet summarizing survey results and an action plan for improvement are going to be submitted to RRD in Nay Pyi Taw as policy recommendations.



Group photo

[Participation in International Day for Disaster Risk Reduction \(IDDRR\) in Nay Pyi Taw, Yangon and Bago Regions](#)

As a member of DRR Working Group, SEEDS Asia participated in the event of International Day of Disaster Risk Reduction held at Myanmar International Convention Center in Nay Pyi Taw on 13th October 2016. After H.E. Mr. Henry Van Thio, Vice President of Myanmar cum Chair of National Disaster Management Committee, addressed his opening remarks, he visited booths that exhibit pictures about the activities by DRR Working Group, which consists of UN agencies and NGOs.





Director of Ayeyarwaddy Regional Office of RRD delivering his opening remarks



Students practised protecting themselves from an earthquake in iPlan pilot test of integrated DRR class



## Philippines (Cebu)

### JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Capacity Building for Disaster Risk Reduction (DRR) through Cooperation between Local Communities and Education Sector in Cebu Province

#### iPlan Pilot Testing in Toledo City Division

On 16th September, iPlan pilot testing was conducted in Talavera Elementary School in Toledo City which is one of the DRR Promotion Schools. iPlans are the “instructional plans” which teachers prepare for themselves by writing down how to proceed the classes before the conduct. Submission of the iPlans which integrate DRR Education into the existing curriculum by Department of Education (DepEd) has been encouraged in Promotion Schools since SEEDS Asia- in partnership with DepEd, especially DRR Education Core Team, conducted DRR capacity building training for the Promotion Schools in May.

The Chief and the Education Program Supervisor of Curriculum Implementation Department (CID) of DepEd Toledo City Schools Division Office, as well as the School Head of Talavera Elementary School participated in the iPlan pilot testing in order to assess the plans and give the teachers guidance to improve effectiveness of the prepared questions, the contents and explanatory sequence of such DRR-integrating iPlans, as well as to check if they can be applied properly by other teachers in different schools. IPlans that have passed the pilot testing will be reviewed by the CID, and they will be approved as official iPlans after deliberation by DepEd Regional Office VII. These officially approved iPlans are planned to be shared to the whole country through DepEd’ s website. Successful integration of DRR into the approved iPlans will enable any teacher at any school in the Philippines to implement DRR Education.

Currently, the process of making, pilot testing, and getting approval of iPlans is ongoing in other DepEd Schools Division Offices, too, which will help establish a model of DRR Education with good examples.

#### DRR Education Roll-out to Other Schools in Model / Promotion School Division

In order to roll out DRR Education in other schools besides Model/Promotion Schools, training for teachers is being actively conducted for the teachers of these schools under the initiative of CID chiefs, DRRM coordinators of DepEd Schools Division Offices, and the trained teachers of Model/Promotion Schools.

<Training on DRR Education to the other schools in Model / Promotion Schools Division Offices>

Name of City (Schools Division Office)	Period	Number of Trainees
Danao City: Model School	24-26 August	77
Cebu Province Daanbantayan: Model School	13-17 October	220
Lapu-Lapu City: Promotion School	17-19 October	190
Bogo City: Model School	26-28 October	570

The series of training was held to build the capacity of the teachers in conducting DRR Education by introducing the same teaching methodology of 21 DRR Education Activities as in the teachers training which SEEDS Asia provided to the teachers of Model/Promotion Schools before. Teachers participated in the training actively and enjoyed learning the DRR Education activities. The training was planned and managed by the Core Team and trained teachers in Model Schools Division Office and by the CID chiefs and the Promotion School teachers, who served the same function with the Core Team, in Promotion Schools Division Office. The mechanism established to promote DRR Education to other schools at the level of each Schools Division Office of DepEd with the trained teachers has boosted the accomplishments of the Project shared to the other schools. In essence, these trained teachers will actualize sustainable DRR Education to their learners in the long run.



A teacher experiencing fire extinguisher on DRR Roll-out in Cebu Province particularly in Daanbantayan



A staff member of SEEDS Asia discussing with CDCCS



Teachers playing DRR game on DRR Roll-out in Lapu Lapu City

### General Donation: Support for people affected by Nepal Earthquake in 2015

#### Support for the improvement of the Resource Center in Dumja through the provision of equipment

In the education system of Nepal, “resource persons” are appointed to take charge of education condition of schools in a range of 3-4 villages based on the district’ s policy, and also to report matters of schools to the district’ s education office. Working place of resource persons is Resource Center. Since resource persons directly instruct school teachers, the improvement of their capacity for instructing and monitoring schools will be a key for the improvement of education in the whole district.

In Dumja area, the Resource Center was damaged by the Gorkha Earthquake. Fortunately, a new Resource Center was prepared, and resource persons resumed their work. However, there is no equipment for monitoring and summarizing education condition of each school, or items for convening training for teachers. For that reason, SEEDS Asia started a needs assessment in order to check if it would be possible to support the Resource Center by providing necessary equipment. SEEDS Asia plans to provide equipment in the future based on result of the assessment.



Children in Dumja area



## Nepal

### Project Funded by Central Community Chest of Japan: Project on Capacity Building of Disaster Risk Management for Village Development Committees

#### Discussion with local organization CDCCS about CBDRM workshop

Collaborating with a local organization- the Center for Disaster and Climate Change Studies (CDCCS), SEEDS Asia has implemented a project to support capacity building for community-based disaster risk management (CBDRM) in three villages in Dumja area in Sindhuli District, which have suffered damage from the Gorkha Earthquake of April 2015. At the end of September 2016, a Japanese staff member of SEEDS Asia visited Nepal to discuss organizing a CBDRM workshop in the three villages with CDCCS. The program was built to make the workshop an opportunity for villagers to reflect on the Gorkha Earthquake in order to emphasize on the lessons learnt through the disaster, the importance and necessity of preparedness before disasters, as well as the conduct of evacuation drills for villagers as a type of preparedness with participation of village officers in planning stage.